

子どもや家族に笑顔を！ その子らしさを大切にしたい保育支援

保育士の活躍の場

現在、保育士はさまざまな場所で活躍しています。保育園はもちろんのこと、障がい児（者）施設、乳児院、養護施設、託児所、病児保育室、ベビーシッター、院内保育園、病院など幅広い分野での需要が増えています。

医療保育とは

様々な保育のなかで、「医療保育」という分野をご存じでしょうか。医療保育とは、医療を要する子どもと家族に対しておこなわれる保育支援です。日本医療保育学会では、「医療を要する子どもとその家族を対象として、子どもを医療の主体として捉え、専門的な保育支援を通して、本人と家族のQOLの向上を目指すことを目的とする」と示されています。医療保育の場としては、病棟、外来、病児保育室、障がい児施設の4つが対象となります。

医療保育専門士とは

当院には医療保育の専門的な知識を身につけたエキスパート、医療保育専門士の資格を有している保育士が2名活躍しています。医療保育専門士とは、日本医療保育学会認定

の専門資格です。この資格は、保育士の資格を有し、病院・診療所・病（後）児保育室・障がい児施設および乳児院等で、常勤1年以上以上の保育経験を有している者が、研修や論文・口頭試問の試験を経て得られる資格です。この資格は平成14年の医療費改定のちに平成19年に施行されました。現在は全国で医療保育専門士の資格を取得して活躍している保育士は130名となっています。

自治医科大学とちぎ子ども医療センターの保育士

自治医科大学とちぎ子ども医療センターでは、8名の保育士が常勤で勤務をしています。当院の保育士は慢性期病棟、急性期病棟、外科系病棟に所属しています。

また、PICU、NICUも保育依頼を受けて適宜介入しています。当院の保育士の役割は、子どもと家族が安心して、子どもがその子らしい生活が送れるように保育支援を実施することです。保育支援の内容は、遊びや成長発達の支援、学習支援、心理的支援、家族支援があります。これらの役割を基本に、各病棟のニーズに合わせた保育支援を実施しています。特に遊びの支援では、

成長発達のほか、ストレス発散や気分転換などを目的として個別保育や集団保育を実施しています。このような保育介入が実施できる背景には、保育士もチーム医療の一員となつて他種職と連携をして子どもや家族をサポートしているからです。

また、子ども医療センターならではの季節に合わせた病棟行事で、情操教育だけでなく家族や医療スタッフにとつても癒しとなる企画を実施しています。夕涼み会やハロウィン、クリスマス会などの各行事で医師や看護師と協力をおこない、スタッフや子ども達、家族が季節を感じ、楽しい一時を過ごしています。さらに、昨年度はドナルドアピランスや銀だこカーの訪問など、様々な人の協力のもとイベントを開催でき、多くの笑顔が病棟中に溢れていました。

私は病院の保育士となり、子どもや家族の笑顔がみられ、退院の時に「保育士さんがいてよかったです。退院は嬉しいけど少し寂しいです。子どもも寂しいって言っていて、辛いです。」「いつも成長に気づかせてもらっています」と

自治医科大学とちぎ子ども医療センター
4階A病棟 保育士 櫻井 さくらい

綾 あや

言われたときに、これからも子どもと家族のサポートや成長の支援をおこなっていきたいと思いました。医療は日々進歩し、医療保育の場も増え、医療現場での保育士のニーズも高まっています。私たち保育士は社会のニーズに応えるべく、さらなる知識や技術を身につけ、チーム医療の一員として入院中も子どもや家族が安心して生活でき、その子らしい成長発達ができるように、支援をおこなっていきたいと思います。

※QOLとは、身の回りのことが自分でできなくても、介助を受けることにより、本人が望む生活の質を確保すること

※PICUは小児集中治療室、NICUは新生児集中治療室のこと

